

第9回世界環境教育学会参加報告

木戸啓絵（岐阜聖徳学園大学短期大学部）

9th World Environmental Education Congress (WEEC 2017)

September 9-15, 2017. Vancouver, BC, CANADA

World Environmental Education Congress–WEEC–is an international congress addressing education for environment and sustainable development. The congress is an international meeting point for everyone working with education for environment and sustainable future or who has an interest in the field. WEEC 2017 was an opportunity to learn more about the latest in environmental and sustainability education, to discuss with people from all over the world, to share our own work and to learn from others.

(2017 World Environmental Education Congress: <http://weec2017.eco-learning.org>)

世界環境教育学会（WEEC）の研究会大会には、北米・オセアニア・アジア・ヨーロッパ・アフリカの世界各国から、環境教育に携わる人々が800人以上集まり、各分科会や講演等のプログラムが行われた。本大会は、「文化 / 環境：新しいつながりの波」

（Culture/Environment: Weaving New Connections）というテーマで実施された。

今年の大会開催地がバンクーバーということもあり、カナダ先住民族（ハイダ族）の長老である Guujaaw 氏や、先住民族研究の第一人者である Jeannette Armstrong 氏の講演などもあり、文化人類学の観点から環境問題に取り組む視点が大きな論点となった。また、環境問題と政策の観点からは、カナダ緑の党の Elizabeth May 党首や、環境問題に精力的に取り組む David Suzuki 財団から Tara Cullis 氏や David Suzuki 氏が講演を行い、社会問題として環境問題に取り組む姿勢がより強調された大会となった。

発表者として参加したパネルディスカッションでは、本学会員である河野桃子会員・曾我幸代会員とともに「日本文化における霊性の再考：シュタイナー教育と森のようちえんの教育観にもとづく保育施設の実践から」（Reconsideration of Spirituality in Japanese Culture: From a Practice of a Nursery School Based on Waldorf- and Forest Pedagogy.）というテーマで発表を行った。参加した本分科会には、幼児教育部門のパネリストが集まり、動物との活動、ICT システムの導入などの発表が実施された。発表自体への質問やコメントとしては、日本の保育者の養成課程に関すること、自然体験の要素が養成課程でどのくらい取り扱われているのかといった点、霊性の観点と神道や仏教との関連など多く寄せられた。また、本大会の議論のテーマともなっていた土地固有の文化とスピリチュアリティの視点を関連付けたコメントも寄せられた。

各分科会では、実践者向けのプログラム（teacher friendly program）も多様に企画されており、実際に屋外でのワークショップ等も実施された。特に印象的だったのは、ワイル

ドペダゴジー (Wild Pedagogy) をテーマにした分科会とガーデン・ベースド・ラーニング (Garden based Learning) の分科会であった。

前者のワークショップは、屋外に出て自然と関わりながら行われた。ワイルドペダゴジーは、自然物が呼びかけてくる視点をもとに研究の論点を深めたり、討論の場においても多層的な対話の構造を重視するといった特徴を持つ新しい教育の考え方と説明されていた。勤務先の保育者養成の授業においても「対話の手法」や「フィールドから湧き上がるリサーチクエスチョンの組み立て方」など参考になる点が多くあった。

後者のワークショップでは、ガーデン・ベースド・ラーニングの一環として、ブリティッシュ・コロンビア大学にある畑や農場での取り組みが紹介された。教室から飛び出し、畑や農場で、音楽や数学といったさまざまな教科学習の活動が行われており、大学院生や大学教員の研究フィールドとしても活用されていた。また、乳幼児期の子どもから定年を迎えたお年寄りまでが、さまざまな立場で畑や農場に集い、ともにプロジェクトを進めることで、世代間交流を深める活動となっていた。これらは、地域連携やアクティブ・ラーニングの視点とも大きく関連する取り組みであり、日本での取り組みと比較や分析を行い、よりよい実践へと高めることが可能なのではないかと感じた。